プレスリリース

平成２２年７月１５日

第１０回野菜需給協議会の概要

独立行政法人農畜産業振興機構

平成２２年７月１４日に独立行政法人農畜産業振興機構（東京都港区）において第１０回野菜需給協議会が開催されました。その概要は下記のとおりです。

記

１．２２年産春野菜の状況について

・　事務局より、前回の協議会に提示した２２年産春夏野菜の需給・価格の見通しと実績の比較及びその要因を説明した。

・　4月16日（野菜高騰）に開催された野菜需給協議会幹事会の結果について事務局より説明した。

・全農より春野菜の価格高騰及び夏はくさいの価格低落に対する取り組みについて説明があった。

２．7月12日に実施した需給協議会幹事会の結果について

・7月12日に夏はくさいの価格低落に対応して持回りで開催した野菜需給協議会幹事会について事務局より報告した。

・２年連続で需給調整を実施したことについて関係者から「需給に見合った計画・生産を行うべき」との意見が出された。

３．２２年産夏野菜の見通しについて

・　株式会社ウェザーマップより、8月は「北冷西暑」傾向。秋以降はラニーニャ現象発生の可能性高く9月は残暑が厳しいと報告があった。

・　２２年産夏秋野菜について、事務局より７月８日に開催した野菜需給・価格情報委員会でとりまとめられた以下のような需給・価格の見通しが報告された。

・　今後は、気象が平年並に推移すれば

夏秋キャベツは、天候不順で初期の生育が遅れたが前年を上回る見込み。

たまねぎは、北海道で天候不順により遅れ気味であるが回復傾向。

夏だいこんは、北海道を中心に作付面積が微増しているが、低温や降雨により播種が遅れているが回復傾向。

秋にんじんは、中心となる北海道で生育が遅れているが、お盆明け以降回復の見込み。

夏はくさいは、需要のほとんどが漬物用であり、漬物需要が減少するなか作付面積は減少傾向にあるものの出荷量は前年並特に9月は平年並みが予測される。

夏秋レタスは、生育が遅れていた長野産が回復し順調、出荷量は前年を上回り平年並みが見込まれる。（別紙参照）

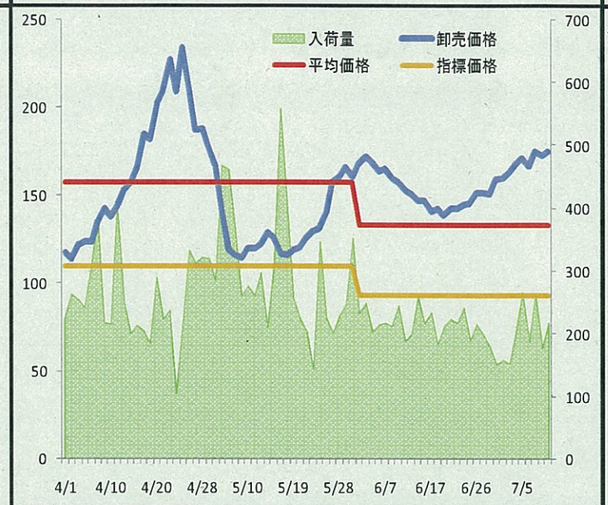
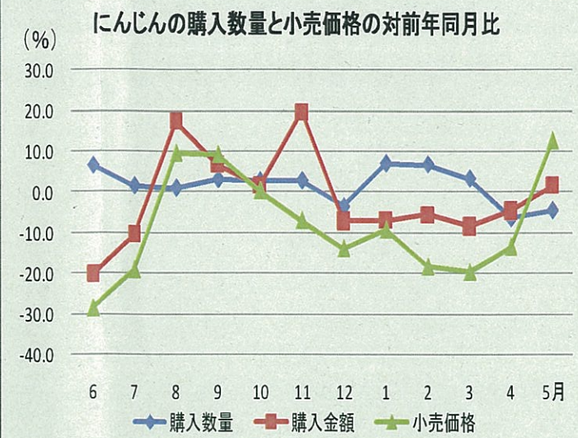
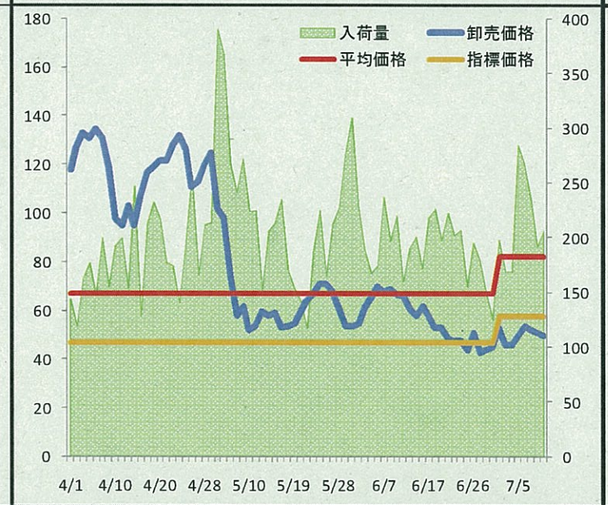
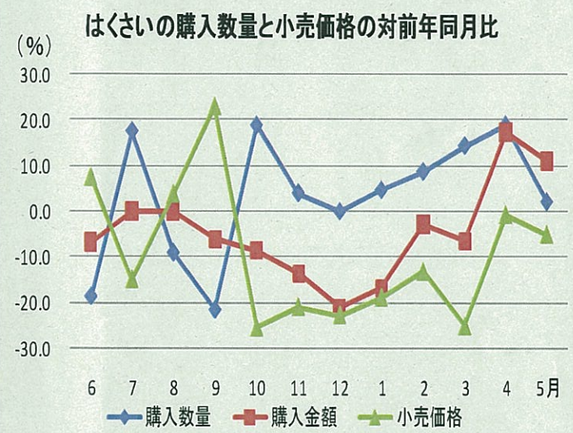
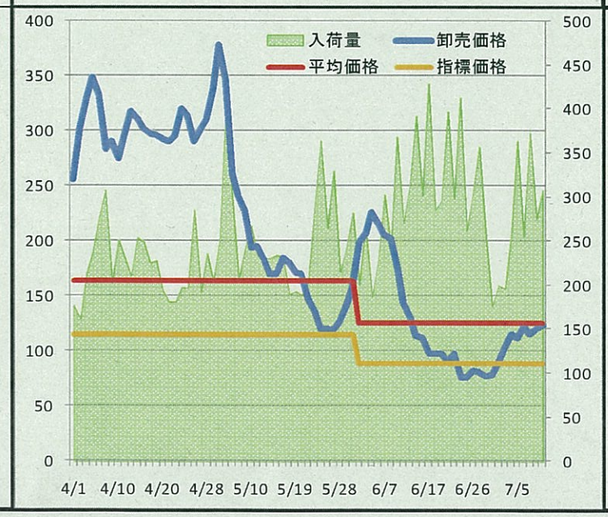
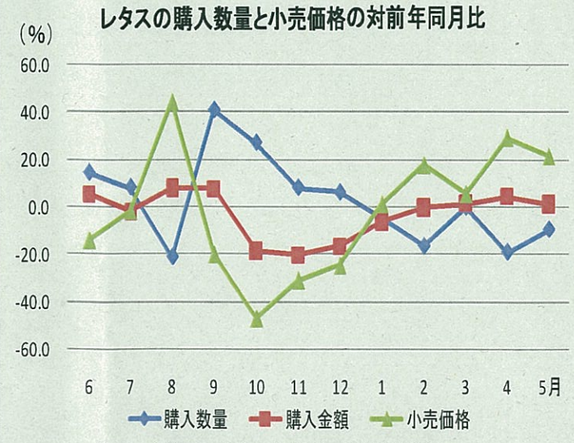
４．野菜の消費拡大に向けた協議会の取組みについて

・　協議会傘下団体よりこの夏の野菜消費拡大の取組みについて説明があった。

・　事務局より、協議会ホームページ開設及び野菜セミナーについての説明があった。

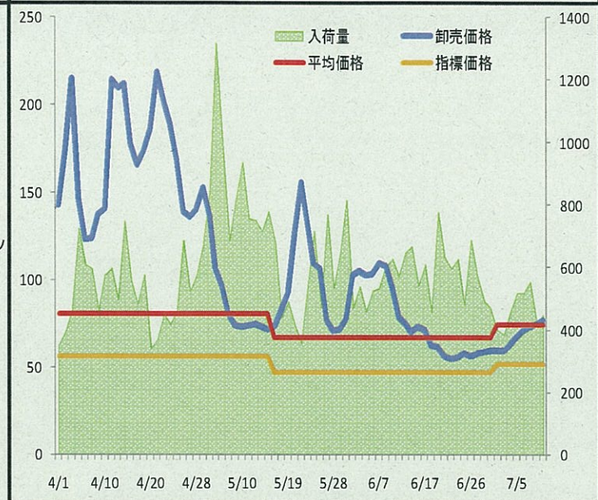
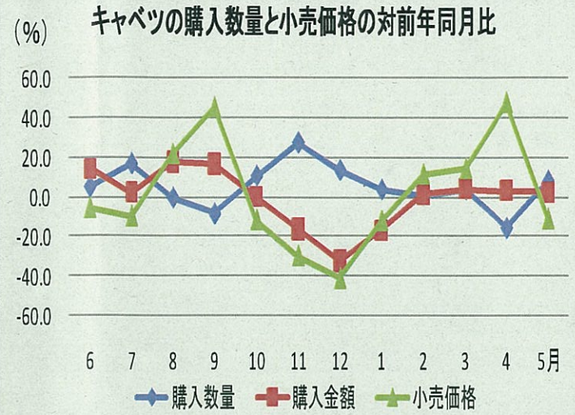
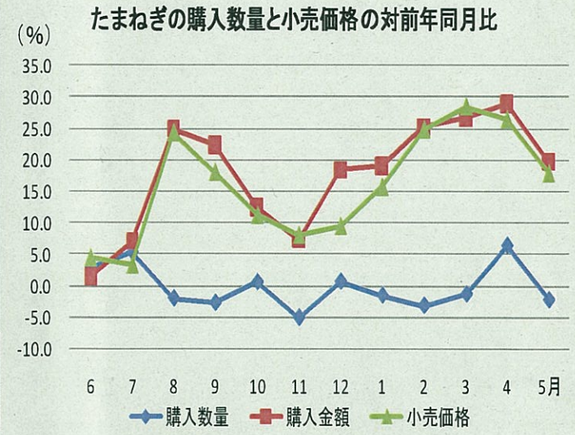
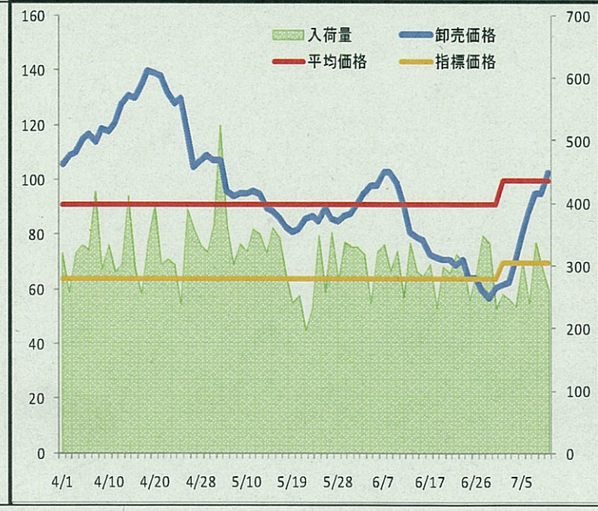
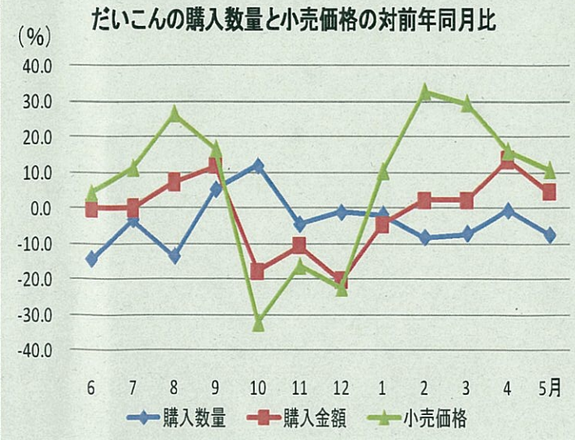
（参考）配布資料等については、おってホームページで公表いたします。

（問い合わせ先）
担当者：野菜需給部　需給推進課
幸田、桃野、吉田
電話番号：０３－３５８３－９４７８
ＦＡＸ：０３－３５８３－９４８４

品目 （出荷期間）	これまでの足取り 卸売数量及び価格 （東京都中央卸売市場　4/1～7/10）	今後の見通し 第７回野菜需給・価格情報委員会 (22.7.8)での需給・価格の見通し	見通しの説明 供　　給 （生産・出荷の現況及び今後の天候見通し）	需　　要
秋にんじん （8～10月）		1　供給見通し ①作付面積は、前年並。 ②生育状況は、中心となる北海道で、低温や降雨により、平年より５～10日程度遅れているが、回復が見込まれる。 ③今後、気象が平年並に推移すれば、お盆明け以降、出荷量が増える可能性がある。 2　需要・価格見通し ①需要面では、加工用の需要が増加することが見込まれる。 ②価格は、７～８月中頃までは、堅調に推移するものと見込まれるが、お盆明け以降、特に９月に入り、厳しい状況となることが見込まれる。	（主な産地：北海道、青森） 1　作付面積は、概ね前年並み、ホクレンは微増、生育は、ホクレンでは低温等により１週間程度遅れたが、青森は平年並み、出荷見通しは全体では前年及び平年を上回ると見込まれる。 （資料2-5、7～8ページ） 2　この先1ヶ月の気象予報は、気温は平年並みかやや高め、日照時間は平年並み、降水量はやや少ない見込み。 （資料2-3、42～46ページ）	 資料：家計調査報告、物価小売統計（総務省）
夏はくさい （7～10月）		1　供給見通し ○夏はくさいの需要のほとんどがつけもの加工用であり、つけもの需要が減少する中で、作付面積は、減少傾向にあるものの、生育状況の遅れが回復していることもあいまって、出荷量は前年並、特に９月には平年並みにまで回復することが見込まれる。 2　需要・価格見通し ①価格は高くても前年並みであり、前年を下回ることも見込まれる。 ②今後は、加工用・業務用の需要に対した需給バランスの確保（計画生産）がより一層重要となる。	（主な産地：茨城、長野） 1　作付面積は減少傾向、生育は３、４月は遅れたものの、６月の好天により回復傾向、出荷量は前年並みで平年を下回るが、天候が順調に推移すれば９月は平年並みの出荷量と見込まれる。 （資料2-5、9～10ページ） 2　この先1ヶ月の気象予報は、気温はやや高め、日照時間、降水量は平年並みの見込み。 （資料2-3、54～56ページ）	 資料：家計調査報告、小売物価統計（総務省）
夏秋レタス （7～10月）		1　供給見通し ①作付面積は、前年並。 ②生育状況は、遅れていた長野県が回復し、順調。 ③今後、気象が平年並に推移すれば、出荷量は回復し前年を上回り、平年並みの出荷が見込まれる。 2　需要・価格見通し ○価格は、８月は前年を下回るものの、９月以降は前年を上回る可能性が有る。	（主な産地：長野、北海道、群馬） 1　作付面積は、減少傾向、長野では微増、生育は春の天候不順により遅れが見られたが回復傾向、天候不順で出荷が減少した前年を上回り平年並みの出荷が見込まれる。 （資料2-5、11～12ページ） 2　この先1ヶ月の気象予報は、気温はやや高め、日照時間は平年並み、降水量はやや多い見込み。 （資料2-3、64～66ページ）	 資料：家計調査報告、小売物価統計（総務省）

○２２年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

別 添

品目 （出荷期間）	これまでの足取り 卸売数量及び価格 （東京都中央卸売市場　4/1～7/10）	今後の見通し 第７回野菜需給・価格情報委員会 (22.7.8)での需給・価格の見通し	見通しの説明 供　　給 （生産・出荷の現況及び今後の天候見通し）	見通しの説明 需　　要
夏秋キャベツ （7～10月）		1　供給見通し ①作付面積は、微増。 ②生育状況は、３～４月の天候不順の影響でやや遅れたが回復傾向。 ③今後、気象が平年並に推移すれば、前年を上回る可能性が高い。 2　需要・価格見通し ○価格は、前年より低めで推移する可能性が高い。	（主な産地：群馬、長野、北海道） 1　作付面積は、全体に微増。３～４月の天候不順もその後回復傾向であるので、出荷見通しは前年、平年を上回る見通し。 （資料2-5、1～2ページ） 2　この先1ヶ月の気象予報は、気温は平年並みかやや高めめ、日照時間は平年並み、降水量は概ね平年並みの見込み。 （資料2-3、4～6ページ）	 資料：家計調査報告、小売物価統計（総務省）
たまねぎ （7～10月）		1　供給見通し ○作付面積は、全国的に前年並。 生育状況は、北海道で１週間から10日ほど天候不順により遅れ気味であるが、回復傾向にある。 2　需要・価格の見通し ①府県産は小玉傾向にあるものの、全国的に見れば平年並みの出荷が見込まれる。 ②価格は、平年並みと見込まれる。	（主な産地：北海道、佐賀、兵庫） 1　作付面積は、佐賀はやや増加し、兵庫はやや減少しているため、全体としては前年並み。生育は佐賀、やや遅れたが回復傾向。出荷は平年を上回る見込み。 （資料2-5、3～4ページ） 2　北海道産は昨年夏の天候不順による不作傾向から、平年よりや７～10日遅れているが、出荷は９月以降平年を上回る見込み。 （資料2-5、4ページ） 3　この先1ヶ月の気象予報は、気温は後半は前年より高め、日照時間は平年並み、降水量はやや少なくなる見込み。 （資料2-3、18～21ページ）	 資料：家計調査報告、小売物価統計（総務省）
夏だいこん （7～9月）		1　供給見通し ①作付面積は、北海道を中心に微増。 ②生育状況は、北海道で低温や降雨により、播種が遅れ平年より遅れているが、回復傾向。 ③今後、気象が平年並に推移すれば、平年並みの出荷が見込まれる。 2　需要・価格見通し ①価格は、出荷増により前年を下回ることが見込まれる。 ②連作障害による品質低下が生じていることに留意する必要が有る。	（主な産地：北海道、青森、岐阜） 1　作付面積は、ホクレンは微増、その他は前年並み、生育は年明け後に低温等によりホクレン、岐阜では生育遅れも、青森ではほぼ回復し、出荷は全体では前年を上回り、平年を下回ることが見込まれる。 （資料2-5、5～6ページ） 2　この先1ヶ月の気象予報は、気温は後半は平年より高め、日照時間は平年並み、降水量はやや少ない見込み。 （資料2-3、30～35ページ）	 資料：家計調査報告、小売物価統計（総務省）